

議員提出議案第2号

西田昌司参議院議員の沖縄戦に関する歴史認識及び発言の撤回拒否に対する再抗議決議

上記の議案を会議規則第14条第1項の規定により提出する。

令和8年7月9日

沖縄県議会議長 中 川 京 貴 殿

提出者	仲宗根	悟	儀	保	唯			
	米	須	清一郎	幸	喜	愛		
	上	原	快	佐	玉	城	健一郎	
	山	里	将	雄	山	内	末	子
	大	田	守	次	呂久	成	崇	
	喜友名	智	子	仲	村	未	央	
	新	垣	光	栄	當	間	盛	夫
	瀬	長	美佐雄	比	嘉	瑞	己	
	西	銘	純	恵	渡久地	修		
	瑞慶覧	長	風	平	良	識	子	
	当	山	勝	利				

理 由

西田昌司参議院議員の沖縄戦に関する歴史認識及び発言の撤回拒否に対する再抗議について関係要路に要求するため。

西田昌司参議院議員の沖縄戦に関する歴史認識及び発言の撤回拒否に対する再抗議決議

令和7年5月16日、本県議会は「西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相をゆがめ、否定する発言に対する抗議決議」を可決し、史実を歪曲し戦没者や戦争体験者の尊厳を踏みにじる発言に対して満身の怒りをもって抗議し、謝罪と撤回を強く求めた。

しかしながら、あれから1年が経過した現在に至るまで、西田氏は発言の撤回を行っていない。そればかりか、その後に開いた記者会見等において、ひめゆりの塔等の具体名を挙げたことについては「TPO（時、場所、場面）が適切ではなかった」と言葉の修正やおわびの体裁を取る一方で、「述べた内容は間違っていない」「事実を言っている」などと自説に固執し、発言の根幹にある歪んだ歴史認識をむしろ重ねて主張するという、極めて不誠実な対応に終始している。

沖縄戦において、国体護持を至上命令とする日本軍は、本土決戦を遅らせるための持久作戦を展開し、沖縄を本土防衛の「捨て石」とした。首里の司令部を放棄して住民の避難地域であった本島南部へ撤退し、軍民混在の凄惨な地上戦に巻き込んだ結果、県民の4人に1人という多大なる貴い命が奪われた。これらが、日本軍の作戦による犠牲であったことは、動かしようのない歴史上の事実である。

西田氏の度重なる主張は、戦争体験者の証言や学術的な戦史研究が明らかにしてきた史実を真っ向から否定し、沖縄の平和教育を侮辱するものであり、到底容認できるものではない。

よって、沖縄県議会は、さきの抗議決議から1年を経てもなお、自らの過ちを認めず、歴史修正主義的な発言を正当化し続ける西田昌司参議院議員に対し、重ねて最大級の怒りをもって厳重に抗議するとともに、下記の事項を再度、強く要求する。

記

- 1 西田昌司参議院議員は、「TPO」という表面的な言葉の言い換えによる釈明をやめ、自身の歴史認識そのものが沖縄戦体験者や遺族の尊厳を著しく傷つけるものであったことを認め、公に全面的な謝罪と発言の撤回を行うこと。
- 2 自由民主党は、西田昌司参議院議員が1年以上にわたり沖縄戦の実相を否定する主張を維持し、県民への冒瀆を重ねている重大性を厳しく認識し、当該議員に対する厳格な処分を速やかに下すとともに、党としての公式な歴史

認識と平和への姿勢を明確にすること。

- 3 自由民主党は、党所属議員が歴史の事実や戦争被害に対して無理解な発言を繰り返すことの重大性を直視し、再発防止のため、党内教育体制の再構築を速やかに実施すること。

上記のとおり決議する。

令和8年7月13日

沖 縄 県 議 会

参 議 院 議 員	西 田	昌 司	}	宛て
自由民主党総裁	高 市	早 苗		